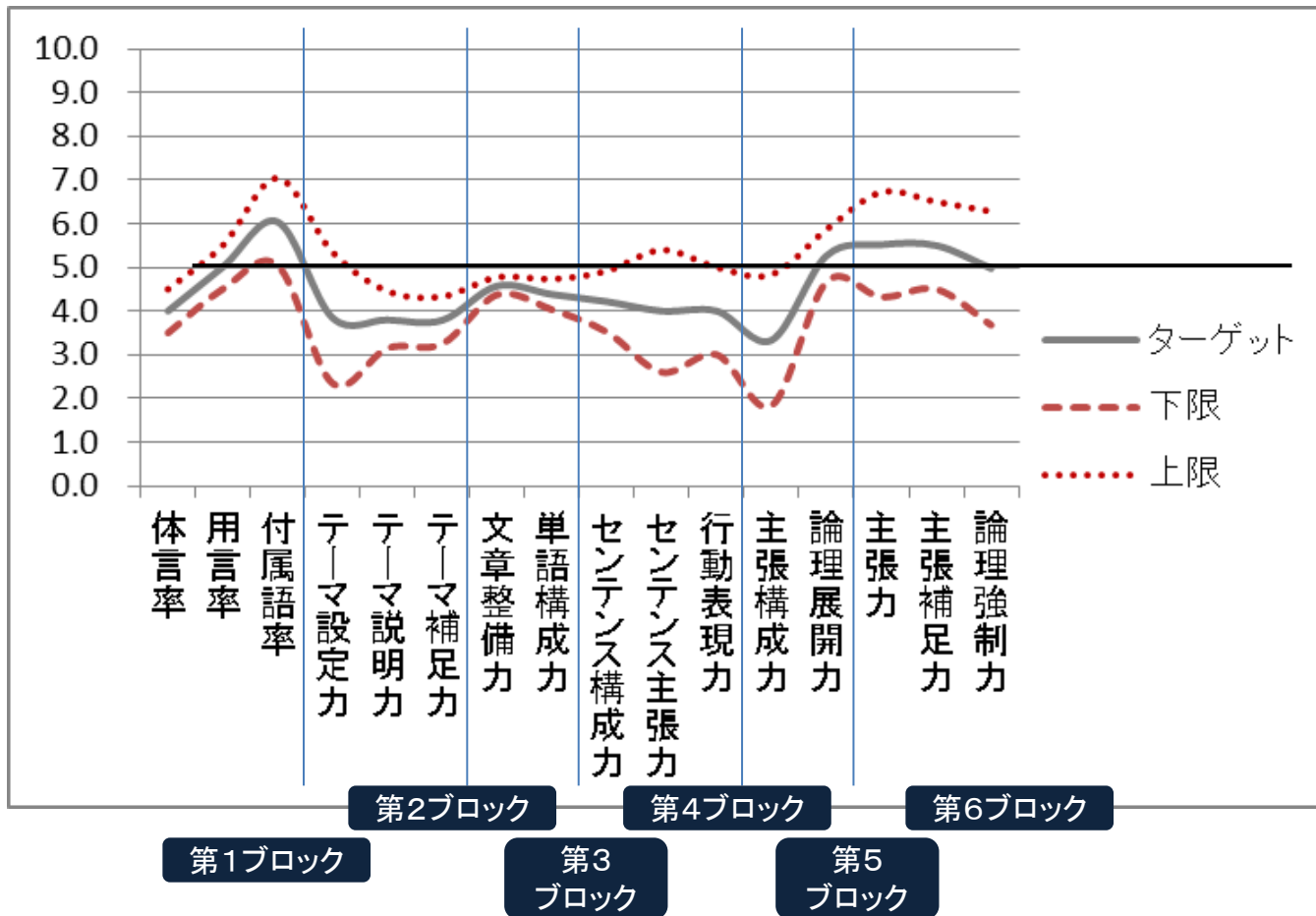


# 文章の心電図



●分析値5.0が基準となる。  
評点として100点満点で表すとすれば、5.0が100点となり、5.0から離れていくに従って点数は下がっていく。分析値0と10.0は100点満点にすると0点となる。

●左グラフのターゲット分析値は、読みやすく、分かりやすい文章の分析値を表している。  
●上限と下限は、ブレ範囲を表す。

6のブロックは分析値の計算方法によって分類している。一つのブロックは同じ計算方法を用いている。  
第1～第3ブロックは文章作者の基本となる傾向を表している。第4～第6はテーマによって変動しやすい。

# 分析値16項目の説明1

分析値16項目は計算方法や扱う単語群の性質によって6ブロックに分類しています。

## 【体言率】－第1ブロック

◆全体の文章の大きさに対して、体言が多くなってくると、考える材料が増えており、内容が複雑になります。少なくなると、単純に見えてきます。◆日本語文法では、体言は、名詞、副詞、接続詞、感動詞、連体詞が当てはまります。文法書によっては、名詞のみを体言と言っている場合もありますが、文道では、活用しない自立語全体を示しています。

## 【用言率】－第1ブロック

◆気持ち、行動、感想などを表す単語の種類を用言と言います。動詞・形容詞を示しています。1センテンスの文字量を減らすと用言率が増えます。◆1センテンスが短くなると、歯切れが良いように感じます。◆用言は、する・です、という単語ではなく、具体的な意味を持つ単語は、書く、取る、伝える、行く、食べる、果たす、持つ、読む、楽しい、怒る、美しい、大きい、などです。具体性を示す単語群を意識するようにしてください。文章がはっきりとして、分りやすくなります。

## 【付属語率】－第1ブロック

◆付属語は難しいですが、気持ちをつなぐ単語だと思ってください。この使い方で、貴方の気持ちが伝わります。規則的な使い方をすると、冷たく感じます。単調になります。いかに豊富に適切に使うかが、人を動かすポイントになります。◆「テニヲハ」などが助詞で「せる・させる、れる・られる、ようだ、ない、たい、ます、みたいだ、です、らしい、だ、」が助動詞です。これらの使い方で、人間性が分ることもあります。

## 【テーマ設定力】－第2ブロック

◆もっとも言いたいことの中点となる単語群を示しています。計算では、その単語の種類数を表しています。◆文章の中から、名詞、動詞、形容詞をひっぱりだし、文章の中で、テーマの中点となる単語群を抽出しています。全体の名詞、動詞、形容詞の約4%に当る単語群になります。◆主張しようとする範囲や主張の強さの程度によって、この比率は変化しています。◆文章で表された中心となっている単語の種類が、日常の習慣で使っている単語群になっています。気をつけてください。

## 【テーマ説明力】－第2ブロック

◆最も言いたいことがあって、その言いたいことを、掘り下げ説明している単語群を示しています。掘り下げて説明すると、意味を限定、絞り込んでいる場合もあります。◆テーマの中点となる1単語に対して、2～4単語が必要です。◆これらの単語群は名詞、動詞、形容詞になります。◆この力は、日常の考え方や行動から習慣になっています。相手に対しての気持ちの丁寧さを示していると考えてください。

## 【テーマ補足力】－第2ブロック

◆文章表現の役割として、意志の伝達のための舞台装置みたいなもので、必要不可欠な部分です。この部分で文章全体のイメージを作りだしています。命令口調の多い人は、この分析値は小さくなります。◆名詞、動詞、形容詞の範囲で、テーマ補足力の単語の割合は、全体の80%を占めています。◆伝達姿勢で、貴方の気持ちの丁寧さを示しています。◆この表現量と丁寧さは、互いによく理解している相手、方法論や説明は不要だと思っている相手、能力を信頼しテーマだけの伝達で良いと思っている相手、などには、少なくなってきました。

## 【文章整備力】－第3ブロック

◆日本語を表現する上で、最も基本的な項目です。意味を持っている単語と、単語それ自体で意味を持っていない単語(付属語)の構成比を表しています。◆日本語を日常使っていると(読む、書く、話すなど)、ほぼ適性値になってきます。大きく外れることはほとんどありません。◆いかなる文体(論文、小説、エッセイなど)であっても、同じ分析値に集約します。

# 分析値16項目の説明2

## 【単語構成力】－第3ブロック

◆使っている単語の種類数です。全体の文字量と、使われた単語の種類数を組み合わせは、伝達する姿勢、伝達の方法などに関わっています。分析値が大きくなると、同じ単語を使っている重複率が小さくなり、単語の種類数が増えてきます。小さくなると、その逆になります。◆文章を分析した結果で、初めて分析値が高い・低いに分るもので、意識をして分析値を変えることは困難です。

## 【センテンス構成力】－第4ブロック

◆いろいろな文字数のセンテンスがありますが、その中で使われている、名詞、動詞、形容詞の単語の強さ(単語重量値)の合計を、1センテンス当りの平均で表しています。表現全体の印象に関わってきます。◆主張したい意味の中心となる単語群に注意して表現してください。

## 【センテンス主張力】－第4ブロック

◆センテンスの中で、主張のもっとも強いセンテンスを、分析値に直した値です。計算は名詞、動詞、形容詞の単語重量値合計です。1センテンスの文字量が多くなると値は大きくなります。しかし、センテンスの文字量が多くなると、体言率や用言率に影響し、文意の伝わり方が悪くなります。文章の表現は適切な文字量で表現されていて、それらの中で、もっとも単語重量値合計の大きいセンテンスの値です。

## 【行動表現力】－第4ブロック

◆1センテンスで適度な用言量が必要です。文章全体で用言が多くなると意見を押し付ける傾向が出てきます。少なくなると、目的が不明瞭になってきます。用言の使い方相手への認識の特徴が現れます。◆特殊な表現でなければ、1センテンスに、1つの用言は必ず含まれます。その用言の、1センテンスに含まれている比率を分析値で表しています。

## 【主張構成力】－第5ブロック

◆1つのテーマを1つの要素で展開するか、複数の要素で展開するかを抽出しています。テーマについての主張要素が多くなれば、内容が難しくなります。◆1つのテーマについて、1つの要素で主張する方が分りやすく、表現しやすいですが、多くの場合1つで済むことはほとんどありません。この程度を表しています。

## 【論理展開力】－第5ブロック

◆主張したいことの強さ、しつこさ、表現の丁寧さのバランスを表しています。文章全体で使われた文字数があり、その数の中で表現が完結しています。丁寧に論旨を展開していくか、表現の強さで、表現の面白さが変わります。◆表現するときの気持ちによって、分析値が変わってきます。表現している人の姿勢が見えてきます。

## 【主張力】－第6ブロック

◆最も言いたいことの中心になっている単語の強さを表しています。◆この単語の存在がはっきり分るときと、曖昧なままで表現されている場合があります。曖昧になっているときは、主張が明確になっていません。逆に、強く出ている場合は、こだわりが現れます。◆この単語の役割は、考える、話を進めていく、軸のようなものです。

## 【主張補足力】－第6ブロック

◆主張力の単語に対して、その次に強い単語群です。主張力で表される単語は、1単語であることが多いですが、2番目の単語は複数が多く、複数であることの方が、意味が通りやすくなります。論旨の展開に広がりがあります。◆主となる単語と次の単語の相関がしっかりと取れていないと上手く伝達できなくなります。単語の意味について、自身の定義の丁寧さ深さによって変わってきます。

## 【論理強制力】－第6ブロック

◆主張したい単語群の強さの流れを回帰値で表し、論旨展開の強さをみています。回帰値の傾きが大きくなると、性急さが強くでてきます。◆より丁寧な説明をすると、この分析値は下がり、大まかに論旨を展開していくと、分析値は上がっていきます。